

めあての立て方や評価、振り返りの仕方を工夫し、  
意欲をもって楽しみながら取り組める授業

ことばの教室 1（言語障害）通級指導教室 自立活動指学習導案

指導者 須田 麻称美

1. 題材名 たいらなしたで [ki]を 正しく いおう

2. 題材について

(1) 子どもの実態と指導経過 1年生（週2回通級）

①発音

（5月）

- ・ [ki][gi]音, [ke][ge]音が歪む。(側音化構音)
- ・ [sa][su][se][so]音が[ツァ][ツ][ツェ][ツォ]音, [dza][dzu][dze][dzo]音が[ジャ][ドゥ][デ][ド]音, [シ]音が[チ]音に置換することがある。構音検査では改善しているが、日常会話の中で誤ることがある。

②弁別

- ・ [ki]音の正誤弁別（他者の発音で正しい音と誤り音を聞き分けること）ができる。

③その他

- ・ 学習意欲は高く、数十回単位の練習も自分で決めて取り組むことができる。
- ・ 話すことが好きで、学校や家庭での出来事をすすんでよく話す。
- ・ 聴力に問題はない。
- ・ タブレット端末で記録した動画や画像を見ながら、自分の舌の様子等について話すことができる。
- ・ ことばの教室の家庭学習にもよく取り組む。

(2) 指導観

舌が硬口蓋の全面に接触し、呼気が舌の正中ではなく両側、もしくは片側に偏ってもれることで音が歪む発音の誤りを側音化構音という。本児は[ki][gi]音, [ke][ge]音を発音する時、舌が硬口蓋のほぼ全面に接触し、呼気が舌の正中ではなく両側からもれて歪む様子が見られることから、側音化構音であると考えられる。

指導においては、まずは舌を奥まで平らにし、口蓋垂が見える状態で保持できるようにすることに重点を置く（平らな舌）。本児はこれまでの練習で、口蓋垂が見える平らな舌の形はできるようになっている。しかし形はできていても、まだ舌の両側（舌縁）や奥舌が波打って動く様子が見られ、止めることができるのは3～4秒程度である。より長く安定して保持できるように、さらに練習を続けていく。また、本児は日常から口唇を強く引き結んだ状態で閉じたり、話したりしている様子が見られ、癖になっていると考えられる。口や舌の体操の練習も継続して行い、口唇の脱力や舌のコントロール力の向上につなげたい。

発音指導では、本児の氏名にも含まれている[ki]音の練習から取り組む。[ki]音を正しく作るために、平らな舌の練習から始め、まずは母音[i]を正しい舌の構えで出せるようにつなげていく。舌を奥までしっかり平らにして、息をまっすぐ出す必要があるが、[i]音は口の開きが狭く舌の形や位置が確認しづらい。練習では鼻息鏡など視覚的に息がまっすぐ出ていることを本児が自分でも確認できるようにする。

本児はこれまでの学習の中で、タブレット端末で記録した画像や動画を見て、「(舌の) ここが動いちゃってる」「口蓋垂が少し隠れてる」など、自分の舌などの様子について話すことができている。自分の苦手なことについて自分の言葉で話すことは、自己理解を深める上で大切である。まだ内容や語彙の不十分さなどはあるが、支援をしながらできるだけ本児自身の言葉で話す機会を多く作っていきたい。

以上のような本児の実態と指導の必要性から、本題材を通して以下のような手立てを取る。

#### ①口や舌の体操

本児は通級当初から「よこよこ（口角打ち）」「ぱーん（脱力した口の開閉）」などの口唇や舌の体操に取り組んできた。ポイントを確認しながら練習し、正しくできるようになってきた。しかし、舌などに力が入りやすいため、継続して練習を行い、一つ一つの精度を上げてより自然に舌を脱力させたり、コントロールしたりできるようにしていく。

#### ②平らな舌の練習

口蓋垂が見える舌の形はできるようになっているため、動かさずに安定して保持できるように、気を付けるポイントをより明確に示しながら練習する。細かい部分に気を付ける必要があるため、鏡で確認しながら練習するのと合わせて、タブレット端末で撮影し、教師と子どもが同じ画像を見ながら振り返り、評価を共有できるようにしていく。また、本児と教師との間で「平らな舌＝ハンバーグの舌」というネーミングをした。本児の考えた言葉を指導時に使うことで、正しい舌の形をより明確にイメージして取り組めると考える。

#### ③母音[i]音の発音練習

平らな舌の練習が進み、安定してできるようになったら、まずは母音[i]を平らな舌を保持したまま発音できるようにする。[i]音が正しい舌の形で構音できないと、そこに子音の/k/をつけて[k<sup>\*</sup>i]音を構音した際に誤り音になりやすくなるため、スモールステップでいねいに指導する。舌の正中が凹み、息がまっすぐ出ていることを、鏡や鼻息鏡を使って本児が視覚的に確認しながら練習できるようにする。

#### ④自分でめあてを決めたり、振り返ったりする活動

めあてや練習回数など、活動の中で本児が自分で決めて取り組む機会を多く作る。自分で決めたから頑張ろうという意欲につながるとともに、苦手なことに対してより自分事として捉えて取り組み、改善や克服に向かって頑張っているという自信にもつながりたい。授業では活動ごとにめあてを決め、それに対して本児が考えた評価マークで、授業の最後にマークを踏まえて授業全体の評価を点数で自己評価できるようにする。それらの評価から教師が理由を聞いて本児の思いを広げたり、深めたりして受け入れることで、次への意欲や自己理解につながりたい。めあてを決めたり、評価したりする際は、「山登り表（練習のステップ表）」や学習シート等の記録、タブレット端末の動画や画像などを、参考や根拠にできるようにする。山登り表は本児の発音改善までの長期目標を示したものであり、毎時間ではなく、活動の節目などで確認し、見通しをもてるように活用する。細かい評価方法については、活動全体の中で適宜本児と話し合い、本児が常に意欲をもって取り組めるように必要に応じて変更や改善を行っていく。

### 3. 題材の目標

【2 心理的な安定 (3)】口舌の体操や弁別の練習に進んで取り組もうとしている。

【6 コミュニケーション (2)】正しい[k<sup>\*</sup>i]音と誤り音を聞き分けることができる。

【6 コミュニケーション (2)】正しい<sup>キ</sup>[ki]音を発音することができる。

4. 全体指導計画 (40時間扱い)

|        |  |    |    |    |     |     |     |         |    |    |
|--------|--|----|----|----|-----|-----|-----|---------|----|----|
|        | 5月   | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月      | 2月 | 3月 |
|        |  |    |    |    |     |     | 本時  | 28 / 40 |    |    |
| 口や舌の体操 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・よこよこ・あかんべー</li> <li>・ぱーん (口の開閉) など</li> </ul>  |    |    |    |     |     |     |         |    |    |
| 弁別     | <ul style="list-style-type: none"> <li><sup>キ</sup>[ki]音</li> <li>・正誤弁別 (他者: 単音節→単語→句→文)</li> <li>・自己正誤弁別</li> <li>[i]音</li> <li>・自己正誤弁別 (鏡・鼻息鏡等を見ながら)</li> </ul>                        |    |    |    |     |     |     |         |    |    |
| 平らな舌   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舌をべーっと出す</li> <li>→舌をまっすぐ前に出す</li> <li>→脱力して奥まで平らにする</li> <li>→脱力して奥を凹ませる→口蓋垂を見せる→保持する (時間を延ばす)</li> </ul>                                       |    |    |    |     |     |     |         |    |    |
| 音作り    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舌出し母音<sup>イ</sup>[i] → 基本ポジション (単音節→連続→無意味音節→単語→句→短文)</li> <li>・母音<sup>イ</sup>[i] → (単音節→無意味音節→単語→句)</li> <li>・<sup>キ</sup>[ki] (単音節)</li> </ul> |    |    |    |     |     |     |         |    |    |

5. 本時の指導 (28 / 40)

(1) 目標

【2 心理的な安定 (3)】弁別や音作りの練習に進んで取り組もうとしている。

【6 コミュニケーション (2)】<sup>キ</sup>[ki]音について、他者の発音の正誤を聞き分けることができる。

【6 コミュニケーション (2)】平らな舌を出して<sup>イ</sup>[i]音を連続で正しく発音することができる。

(2) 展開

| 時配  | 学習活動と内容<br>◎教師の発問 ・子どもの反応  | ○支援 ☆評価 (方法)   | 資料                                |
|-----|--|--|-----------------------------------|
| 3分  | 1. 自由会話・宿題チェック<br>家庭や学校での出来事等について話したり、宿題チェックを受けたりする。   | ○安心して楽しく話し、学習への意欲につなげられるようにする。<br>○家庭学習の取り組みを確認し、頑張りを評価する。   | 宿題ファイル                            |
| 7分  | 2. 学習内容の確認<br>本時の内容を確認し見通しをもつ。<br>① 耳クイズ<br>② 口や舌の体操<br>③ <sup>イ</sup> [i]の練習 (連続)<br>④ 振り返り                 | ○見通しをもって取り組めるように、本時の学習内容をホワイトボードに提示しながら一緒に確認する。<br>○本時のめあて「平らな舌で <sup>イ</sup> [i]をつづけて正しく言う」についても、山登り表を見せて簡単に確認する。 | ホワイトボード<br>山登り表                   |
| 5分  | 3. 耳クイズ (音の弁別)<br>めあてを決める。<br>・全問正解! 等<br>教師の発音する <sup>キ</sup> [ki]音の正誤を聞き分ける。<br>振り返る。<br>・全問正解だから「よくできた」 等 | ○弁別が正しかったか、即時評価で伝える。<br>☆ <sup>キ</sup> [ki]音について他者の発音の正誤を聞き分けることができたか。(観察)   | ○×ブザー<br><sup>キ</sup> [ki]音の単語カード |
| 10分 | 4. 口や舌の体操  | ○取り組む前に、各体操のポイントを  | 鏡                                 |

|     |  |   |  |
|-----|--|---|--|
| 15分 | <p>順番とめあてを決めて取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンバーグの舌で○秒止める。等</li> </ul> <p>① 「ぱーん」(口の脱力・開閉)<br/>     ② 「よこよこ」(舌の口角打ち)<br/>     ③ 「べー」(舌出し)<br/>     ④ 「ハンバーグの舌」(平らな舌)<br/>     振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○秒いかないから「まあまあ」等</li> </ul> <p>5. <sup>1</sup>[i]音の練習<br/> <sup>キ</sup>[ki]音の山登り表を見て、本時の活動を<sup>キ</sup>確認し、めあてを決める。</p>  | <p>簡潔に確認してから行う。</p> <p>○できていることは適宜評価して意欲につなげる。</p> <p>○山登り表で練習のステップを確認し、表の文言等から本児が自分でめあてを決められるように導く。</p>  | <p>ペンライト<br/>     体操カード</p>  |
| 5分  | <p style="text-align: center;">ハンバーグのしたで <sup>1</sup>[i]をつづけていおう！</p> <p>◎どうすれば<sup>1</sup>[i]をつづけて正しく出せるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと舌の真ん中を凹ませる。</li> <li>・ハンバーグの舌で言う。等</li> </ul> <p>練習回数とめあてを決めて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○回練習する。</li> <li>・全部上手に言う。</li> </ul> <p>振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンバーグの舌で言えたから「よくできた」</li> <li>・○回上手に言えなかったから「がんばろう」等</li> </ul> <p>6. 振り返り・宿題の確認<br/>     本時について、各活動の評価をまとめて振り返り、自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全部「よくできた」だったから10点満点！</li> <li>・一つ「がんばろう」だったから8点かな。等</li> </ul> <p>宿題の内容を相談して決める。<br/>     次回の予定を確認する。</p> | <p>○練習回数を自分で決めることで、意欲をもって取り組めるようにする。</p> <p>○歪む場合は、単音節や平らな舌など、練習のステップを戻って復習する。</p> <p>○必要に応じて教師が見本を見せ、舌や口の形など気を付けるべき点について一緒に確認できるようにする。</p> <p>○さいころは目の数が2～4程度のものを複数用意し、本児の舌の様子に合わせて、連続して発音することができそうな回数のさいころを本児と話し合って決めて使用する。</p> <p>○適宜タブレット端末で撮影し、正誤判断の根拠や、成功例の記録などに活用する。</p> <p>☆平らな舌で<sup>1</sup>[i]音を続けて正しく発音できたか。(観察)</p> <p>○各活動の評価をもとに、本時全体の自己評価をさせ、受容して取り組みを評価するとともに、次時への意欲につなげる。</p> <p>☆音作りなどの練習に進んで取り組もうとしていたか。(観察)</p> <p>○本児が確実にできることを家庭学習にすることで、定着を図る。</p> | <p>山登り表<br/>     鏡<br/>     鼻息鏡<br/>     ペンライト<br/>     タブレット<br/>     端末<br/>     練習記録シート<br/>     さいころ</p> <p>宿題ファイル<br/>     通級ファイル</p> |

【参考文献】 「わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法 舌運動訓練活用法」 山下由香里・武井良子・佐藤亜紀子・山田絢子 (2020) 学苑社